



# くまのもりお通信

Vol.04  
2017.Mar

松村 愛宕八幡神社 秋祭りにて

## TOPICS

### 金沢市が提供している KANAZAWA FREE WIFIを調査

今年に入り、インターネットの学生（高田さん/金沢大学、張田さん/金沢大学）とともに、金沢市が提供しているKANAZAWA FREE WIFIのアンケート調査を行い、その結果を基に、3月議会にて質問いたしました。



金沢21世紀美術館にて

皆様からのご意見、心よりお待ちしております。

✉ info@kumanomorio.com

くまのもりお事務所 ☎076-256-3757  
金沢市みどり2-6-2 FAX.076-256-3836

金沢市役所〈創生かなざわ〉 ☎076-220-2448  
金沢市広坂1-1-1 FAX.076-223-0116

ホームページも随時更新しています→ <http://kumanomorio.com>



発行/金沢市議会議員 熊野盛夫 〈自宅〉金沢市松村7丁目36-13

## ～市政とはみんなが主役の舞台づくり～

皆様から金沢市議会議員のお仕事を頂いて、はじめて名刺に書かせていただいた言葉です。そして、1年10ヶ月。いよいよ金沢市民が市政を動かはじめました。第2庁舎の議場移転計画撤廃、地下通路、上空通路撤廃です。議会はもちろんのこと、多くの場で開かれた議論が必要です。

現在、家庭ごみ有料化の問題をはじめ、保育所に入所できないお子さんの問題、高齢化が進行する中での諸々の問題、公共交通や、農林水産業の次世代への確かなバトタッチ、教育環境のアンバランスの是正など、町にはいろいろな問題があります。

皆様のご意見をお伺いしながらコツコツと取り組んで参ります。これからも宜しくお願い致します。

平成28年の6月、9月、12月議会の質問をまとめてみました。是非、お読み頂きご感想、ご意見などお寄せいただけましたら幸いです。そのほか、市政に関し、広く皆様の声をお待ち致しております。

金沢市議会議員 熊野盛夫



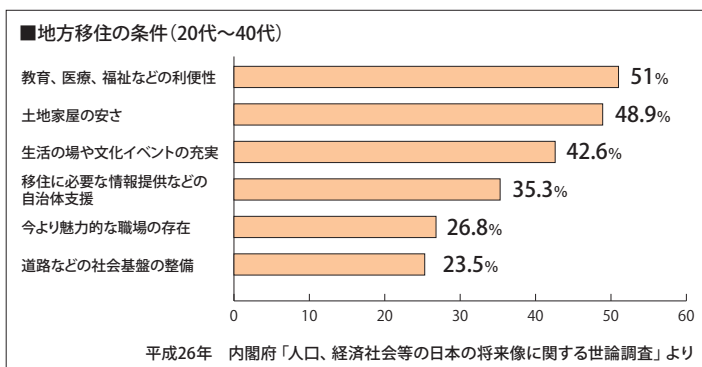
## 6月議会

平成28年度金沢市議会6月定例会議会

### 『最優先すべきは子育てしやすいまちづくり』 地方創生における優先課題について

**Q** 内閣府の調査では、都市部に住む全体の約4割が地方移住OKで、そのうち20代から40代の方の地方移住の条件は、「教育、医療、福祉などの利便性：51%」「土地家屋の安さ：48.9%」「生活の場や文化イベントの充実：42.6%」「移住に必要な情報提供などの自治体支援：35.3%」「今より魅力的な職場の存在：26.8%」「道路などの社会基盤の整備：25.3%」となっており、移住を前向きに考える人が真っ先に教育、医療、福祉の利便性を挙げている。子育てしにくい都市部から子育てしやすい地方への人口移動をいかに図るか、地方創生において最優先すべきは子育てしやすいまちづくりで、第2庁舎建設より、学校建設や学校環境整備が先ではないのか。

**A** 去年の10月に金沢版総合戦略を掲げ、4つの基本目標の中でも、子育て支援をこの基本目標の第1に金沢市は掲げており子育てしやすい環境に取り組んでいるところである。



## 金沢市内の郊外マンモス学校の教育環境について

- Q** 今年度、入学者数が最も多かった田上小学校では、
- ・教室から非常口に向かう廊下に多くの教材。
  - ・地域の防災拠点にも指定されている学校の非常口経路が十分に確保されていない。(下部 写真参照)
  - ・給食の配膳室に入り切らない給食が配膳室前の廊下に並べられている。
  - ・保健室のベッドは2つしかなく、有事の際は校長室のソファを向かい合わせに2つ並べて臨時ベッドとして使用し、校長室は間仕切りによって半分が臨時保健室になっている。
  - ・職員室も手狭で教職員の労働環境としては適正を欠いている。
- など、さまざまな問題点が見られました。

体育館や教員の駐車スペースなども含めて、いち早く改善が望まれるべき。この4月より通学区域審議会で学校規模の適正化に向けた議論を開始されたとのことだが、どのような内容で、どのような検討を行っているのか。

- A** 現在、通学区域審議会で、大規模校の解消も大切な視点の一つとして、学校規模の適正化に向けた議論を進めているところであり、それを踏まえ、教育環境の改善、充実に向けて適切に対応していく。

- Q** 大徳小、木曳野小も児童が溢れているが、大徳地区の第3小学校の建設における進捗状況はどうなっているか。

- A** 本年度当初予算において、統合により開校した泉小学校の建設事業費を盛り込むなど、前年度比で6.5%増の教育費を計上した。現在、地方創生の予算項目には、過疎地域の合併を前提とした学校規模適正化の予算はあっても、市街地の学校規模適正化に関する予算はないため早急に進めなければならない。

- Q** 現在、金沢市では、第二庁舎の建設の実設計段階にあるが、中核市サミットの宣言からも、学校規模適正化こそ地方創生の要になり、その実現に向けた施策こそ最も早急に取り組むべき課題であると思うが市長はどう考えているのか。

- A** 第二庁舎の建設は、地方自治体が行政を行うための基盤となるもので、その整備も自治体にとって最も基本的かつ重要な仕事であることを御理解願う。

- Q** 学校規模適正化に加え、それらの学校施設、あるいは別の市の公共施設の柔軟な使用についての条例を定めてはどうか。

- A** 条例では、目的や用途、管理方法等を明確化しなければならないこと、さらには所期の目的を達成した施設を他の目的で利用する場合には、その都度、条例を改正、または制定する必要がある。したがって、条例をあらかじめ制定することができない。



←視察した田上小学校の廊下。多くの教材があり、非常口(写真奥)へ十分な経路が確保されていません。

## 家庭ごみ有料化の各地区の説明会と市民の理解度について

- Q** 元町福祉健康センターでの説明会で、ごみ有料化のみに絞った説明会ではなく、平成28年度の予算概要とあわせて説明会であった。情報量としては非常に多く丁寧な説明かもしれないが、内容をわかりやすく伝えることよりも、やっているぞという熱を伝えるための説明会のような気がした。今後、校下説明会、町会説明会の際、さらにゆっくりとしたペースで話す、わかりやすい丁寧な説明をすべきではないか。

- A** ごみの有料化の説明を私なりに丁寧に言い、一つ一つのパワーポイントは相当長い時間、丁寧に説明した。引き続き、これから町会連合会であったり、町会であったり、大学であったり、業者に対する説明も、同じように丁寧に説明を重ねていくことが必要だと思っている。

- Q** 市長は、住民が納得したか測る住民投票を行わないと説明会で述べたが、市民の理解度をどうやって判断するのか。

- A** 担当部署のほうで鋭意説明会を重ねているところであり、引き続き、それを続けているところ。最大限の努力をしていきたい。有料化導入は私がしかるべきタイミングで適切に判断し、議会の皆さんに条例と予算を上程して、市民の負託を受けた議会の皆さん各位にお諮りをしたい。



↑第18期自治政策特別講座に参加。いざという時に役立つ避難所運営HUGの紹介と体験を全国の地方議員と勉強しました。

## ミシュランガイドへの拠出した負担金について

- Q** 金沢市では世界的に権威のある飲食店ガイドとして有名なフランスのミシュランガイドに対し、英語版ウェブサイト制作に当たって900万円を拠出したが、石川県は、飲食店の格付を支援することを理由に断っている。それぞれの自治体によって対応が異なるのは当然だが、市民は、県が断っているのに、なぜ金沢市は拠出したのかという声がある。当局の考えを聞きたい。

- A** ミシュランのブランド力、影響力というのは極めて大きく期待できるもの。

- Q** 金沢市が負担金を拠出しなくても、ミシュランのほうで英語版ウェブサイト制作せざるを得なかったのではないか。

- A** 私どものほうからその魅力を伝えることによって、取り上げていただけるように努力をしていかなければいけないと思っている。

- Q** 世界の交流拠点都市を標榜するがゆえに、金沢市に対し、今後、次々と世界中のガイド等が支援金を求めてくることも考えられるが、対応は？

- A** 1つ1つ調査、議論し、その都度、費用と誘客促進の効果をはかりながら判断する。

## 金沢市が行っている 家庭ごみ有料化に向けた説明会について

**Q** 説明会の冒頭で、15分間程度のDVDが流されます。その最初の方に、平成21年から25年までの金沢市のごみの総排出量のグラフが表示された画面に、「ここ5年間のゴミの排出量にほぼ変化はなく、同じ中核市や全国平均と比べても、金沢市はゴミの排出量が少し多い状況になっています。」というナレーションが入ります。しかし、今回市民に理解を求めるのは家庭系ごみであって、事業系を含めた総量ではありません。家庭系ごみの量は平成23年から平成26年までの4年間、わずかながらずつでも減少しています。さらに、平成25年のデータでは、家庭系ごみの量は全国平均より50グラムも少ないのです。そのような資料を見せて、家庭ごみの有料化に御協力くださいということが果たして丁寧な説明と言えるのでしょうか。また、市民の皆様からいただいた質問に対して、どのような対応をするのか。たとえその場で返答できなくても、電話番号を聞いて返答したり、あるいは1週間以内にホームページに掲載するなど、そういった対応を一つ一つ行うことが丁寧な説明会であり、丁寧な説明では？

**A** 原則その場でお答えできるものはその場で答えさせていただいており、伝えるべきテーマについては、私なり副市長なりがしっかりと聞いています。即答できないものについては、後日、町会長宛てに回答するなどさせていただいている。

できるだけ最大公約数的なものを中心にまとめさせていただきまして、できるだけ早い段階で議会の皆さんにも御報告させていただきたいと思っているし、あわせてホームページ等々を通じまして、多くの市民の皆さんにもお伝えさせていただければというふうに思っている。

**Q** せっかく全町会に説明に赴くのであれば、一律の説明をするだけでなく、町会の特徴をしっかりと行政として把握するよい機会ではないか。そういった行政からのまなざし、真摯な態度が市民との確固とした信頼関係につながるのではないか。

**A** その校下やその地区での集団回収の取り組みやステーションの状況なども説明の中で触れながら、その地域の特徴を踏まえた説明会を心がけているところで、引き続き、そういう形で地域地域に合った形での説明会に取り組んでいく。

**Q** 市民との信頼関係をしっかりと築いていくためには、名古屋市や有料化をしないで頑張っている他都市について金沢市が学ぶことから始めなければならないと思うが？

**A** ささまざまな工夫をされて取り組んでいる自治体の例は大いに参考になる。それを参考にしながら、少しでもごみの減量化、資源化を図っていく、ごみ負担処理の公平化を図っていくことを重要視する。さまざまな都市の事例も参考にしながら、これからのごみ処理対策に取り組んでいく。

## 金沢港と隣接地域の整備と活性化について

**Q** 歴史、文化、食文化資源を有する地域、金石、大野、大徳地区と、こういった交通網、あるいは交通システムでつないでいくか。あるいは、歩道沿いはどのような街路樹でもてなすのか、一本一本の街路樹が金沢の心になると思われ、友禅大使の真心ではないが、細やかな計画が必要ではないかと思われる。

**A** 大型クルーズ船に対応した岸壁の整備など、機能強化を進めるとともに、港湾管理者である県に対し、にぎわい創出に資する施設整備

を要望するなど、ハード整備やソフト施策の充実に取り組んでいるところ。第2次金沢交通戦略において、港から駅、まちなかへのアクセス機能の向上を図るとともに、金沢港の交通結節機能を強化する。隣接地域との回遊性の向上についても、今後研究を重ねる。

**Q** 現代の港を支えているのは、ものづくりから生まれる物流の結晶であるコンテナの荷物が基本。現在、金沢港のコンテナ量は、コマツの金沢工場が大きな柱となって支えている。舞鶴市のような他地域での地味な営業活動も大切ではないか。

**A** 金沢港の取扱貨物量は増加傾向。平成27年は5万8,150本と、平成26年に続く過去2番目の取扱量となっている。これは、県・市、経済界が一体となってポートセールスを展開し、荷主企業の獲得に努めてきた一つの成果。さらに、太平洋側の港を利用する県内外の企業に対して物流ルートの転換を働きかけ、貨物量の増加が期待できる東南アジア進出企業に対して、格段にトライアル輸送や合い積み輸送などを促すポートセールス活動を積極的に行っていくことによって、取扱貨物の拡大と安定的確保を目指す。

**Q** 船という交通網について、市民、県民が大きく意識し始めた今、クルーズ船のみならず、車両も運べるフェリーの誘致も重要ではないかと思われる。交流拠点都市の港として、あらゆる船舶の利用の可能性を探ってほしいと思われるが。

**A** 国際海上コンテナと外航クルーズについては、まだまだ、私は営業の余地もあり金沢港を知らしめていくための努力も必要だと考える。県や関係機関と連携して、コンテナ貨物量増大のために国内外での集荷の獲得に取り組むほか、金沢港発着クルーズの誘致について重点的に取り組むことをまずは最優先にしていきたい。

## 公共施設のトイレについて

**Q** あらゆる駅で、施設で、ホールで、女性トイレに並ぶ列をよく見かける。市の施設でトイレを設置する場合、トイレSOZOチームで、金沢市のトイレの面積比率を女性トイレが広がるように決めて、条例化してはどうか。

**A** 本チームでは、トイレ空間の現状と課題、求められる機能などを整理し、それらを踏まえて改善策を検討するというふうに行っているところ。女性ならではの発想ときめ細やかな視点を生かした提案を期待しているところで、その提案に沿う形で、これから施策化に取り組んでいければというふう考えている。



↑第42回みどり連合町会 ふれあい夏祭りに参加。緑中学校吹奏楽部の演奏で踊りました。

## 家庭系ごみの有料化について

Q 金沢市の場合1枚目から45円(45L)だが、小松市は年間24枚を無償配布し(小松市民の昨年の平均ごみ量が22.4枚で収まるため)、25枚目から20円で販売する。このやり方は市民に納得してもらいやすいのでは。



←小松市指定のゴミ袋。市民一人に年間24枚を無償配布しています。

A 単純重量制、超過重量制の2つが主な有料化の方法である。有料化している450の自治体の内、95%が単純重量制で、小松市を含む5%が超過重量制である。金沢市も95%が行っている単純重量制を用い、手数料を地域に還元していく。

Q 小松市の家庭系ごみ袋の制度設計は、町内会連合会、女性協議会などの各種団体、そして各町内会との意見交換会から出された市民の意見を基につくられている。この小松市の姿勢は、金沢市も大いに見習うべきでは？

A 小松市は条例が可決された後に説明会が開かれているが、金沢市は可決される前に行っている。そして1300以上の自治体すべてに説明に回っている途中。より良いものがあれば勉強させて頂く。

Q 金沢市の大徳地区でも小松市のコンセプトに合う施策を行っている(3種類のカラーごみ袋を市民の納得する値段で有料化)。金沢市もこのシステムについて研究し、取り入れてみては？

A 心から敬意を表する。担当部署も参考にして、より良いシステムにしていきたい。

Q 昨年度の金沢市の古紙回収総量は4532トンで報奨金の決算総額は906万4千円。報奨金を2円から(横須賀と同じ)4円にして、もし倍の回収量になったとするならば、昨年度の予算、プラス2720万円の予算で大きなごみ減量化が図れる。ごみの減量の要である紙資源ごみの集団回収率を本気であげようとするならば、報奨金を有料化とは別に予算化すべきではないか。

A 予算化によって劇的に効果があるとは思っていない。仕組みを変えて様々な取り組みを行っていきたい。

Q 現在、ごみの焼却によって金沢市は年間8億円を超える収入がある。2800万円の追加予算計上はなんら大きくない金額だと言えるのではないか。それをためらい、これまでの計画通り有料化を推進すれば、金沢市が進める家庭系ごみ袋の有料化政策は、「ごみの減量」ではなく「有料化」そのものための制度づくりと言われても反論することはできないのでは？

A 反論する気はない。しかし、色んな意見を全てとは言えないが、その多くに対して理路整然と説明をし、納得してもらえる準備を金沢市は行っている。

## 金沢市の第2次交通戦略と公共交通について

Q 公共交通料金について、多くの市民がより利用しやすい価格というものに対する徹底的なこだわりや、追及する姿勢が足りないように思えるが？

A 交通戦略において料金の指摘があったため、関係機関の協力を得て休日に100円で利用をできるような区間バスを設置した。料金施

策を含めた利便性の向上が重要だと認識しているが、料金設定は事業の経営にも大きく関わるため、引き続き協議を続ける。

Q 現在、新交通システム導入を検討しているが、全世帯の市民が、どれくらいの価格帯なら、どれだけの割合で、どちらの方面に行くのに公共交通を利用したいか、という詳細なマーケティング調査を徹底的にすべきではないか？

A そのとおりである。しっかりと調査を行い、研究を進めていく。

Q 先日、金沢市において、ふらっとバスを待っていた車椅子利用者が素通りされる事態発生。天候等で確認が普段より困難な状況でも、あってはならない事態。金沢市として今後対応が必要なのではないか。

A そのような事態が起こり、大変残念である。配慮した研修、乗車意思確認の徹底をお願いした。社会的弱者の方も利用しやすい交通環境を作っていかなければならない。

## 地元金沢市の某企業が取り組むバイオトイレについて

Q 循環型持続可能社会を具現化するために地元企業が尽力している。このバイオマストイレを市内の小中学校のグラウンドに設置することによって、子どもたちに私達人間も、自然の一部分で、循環する社会の中で生きていて、その持続可能性こそが大切であるというメッセージになるのでは？防災的観点からもバイオトイレの設置は有効であると思うが如何か。

A 電気や水を使わない利点は大きい。しかしまだ課題が有り、多くの人が日常的に利用するには向いていないという声がある。現段階では難しいと考えているが、事業者は研究熱心であり、これからの開発に期待していきたい。

## 県外出身の学卒者の定住について

Q 金沢市にとって、県外出身の学卒者の定住も重点政策の1つ。「仕事」の側面を充実させるだけでなく「住まい」についてもしっかりと政策が必要なことから、新卒者の市営住宅入居促進策を打っては如何か。

A 公営住宅の役割は住宅に困窮した低額所得世帯に、対して供給することである。単身での入居は認めていないということをご承知いただきたい。

## 金沢市内小中学校の通級指導教室について

Q 先日、小学校の通級指導教室に通う児童の保護者から、学校で子どもがうまくやっていたり、授業について行けるかという不安が解けた、と喜びの声を聞いた。その一方、小学校から中学校への進学の際、通級指導教室そのものの数が減っている。小学校でも狭き門だったのに、さらに狭き門になると申し込む前に諦めて希望を出さなかったという話を聞いたが、しっかりと児童、保護者の希望を聞いて対応して欲しい。

A 担任だけでなく管理職も交えて、保護者や児童と懇談を行っている。通級指導教室を継続希望の場合、円滑に通級ができるよう、教育委員会ですっきり手続きを行っていきたい。